

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2672100027		
法人名	社会福祉法人 北星会		
事業所名	グループホーム天橋の家		
所在地	京都府宮津市字惣421番地の1		
自己評価作成日	平成25年3月1日	評価結果市町村受理日	平成25年7月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.keigokensaku.jp/26/index.php?action_kouhvu_detail_2012_022_kani=true&amp;JiyogyoCd=2672100027-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.keigokensaku.jp/26/index.php?action_kouhvu_detail_2012_022_kani=true&amp;JiyogyoCd=2672100027-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成25年4月24日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

住宅街に立地しており駅から近く近隣にはスーパーマーケット、喫茶店、医院などがあります。当事業所は2階にあり大きな窓から見える山々の景色や季節を目で楽しむことができます。また特別養護老人ホーム、デイサービスが併設されており、行事を合同で行うこともあり、幅広い方との交流を行っています。地域住民との交流も行っており、近隣の保育所や地元老人会との交流、ボランティアや実習生の受け入れを行っています。食事は会議や行事の時を除いては基本的には3食すべて事業所内にて入居者の方と職員で協力しながら調理しています。その他、掃除や洗濯等も無理のない範囲でできる限り入居者の方が自分で行なえるよう努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当該事業所は家庭的な雰囲気を大切に第二の我が家を目指し、家族との交流、地域とのつながりを大切にという方針を掲げ職員全員で取り組んでいます。食事の準備を一緒に行い家庭的な雰囲気の中で同じ食卓を囲んだり、洗濯物たたみ、掃除等できることを共に行いながら家族のように過ごし、随所にソファを置き畳のコーナーも設けホームの中でゆったりと寛いで過ごしてもらえるような配慮をしています。地域の祭りや運動会、お茶会等への参加、商工会議所の事業への手作り作品の出品など地域との交流を深め、老人会や保育園との関わり、ボランティアの訪問も大切に地域との良好な関係を築いています。また職員のスキルアップを図るため他事業所との交換研修を行い、サービスの質の向上に繋がっています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である3つの誓い、事業所独自の運営方針を目的のつく場所に掲示し、日々取り組んでいる。	開設時に法人理念を基に職員間で話し合い作成した運営方針を事務所の入り口に掲示し、職員間で共有しています。家庭的な雰囲気や家族、地域とのつながりを大切に第二の我が家を目指し取り組んでいます。月1回の会議や日々のミーティングで実践できるように話し合っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には行われていないが近隣の保育所との交流、ボランティア、実習の受け入れ、地元老人会との交流など地域の方との交流の機会を設けている。	特別養護老人ホーム等の施設全体で自治会に入会しています。市から配布される広報誌や運営推進会議の中で情報を得て地域の祭りや運動会、お茶会などに参加したり、商工会議所が主催する事業に利用者と共に作製した作品を出展するなど、地域との交流が深まっています。また保育園との関わりや中学校の職場体験も受け入れ、ボランティアの訪問等地域行事以外にも事業所での交流の機会が多くあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	過去に地元老人会と共催し「認知症サポーター養成講座」を行ったが現在は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況報告、情報交換しサービスの向上に活かしている。	自治会長、民生委員、市職員、介護相談員、家族等の参加を得て、2か月に1回開催しています。事業所の活動、事故報告を行い、参加者からは様々な意見やアドバイスをもらっています。出てきた意見は職員間で検討し、まずは実施してみることが心掛け再検討し、結果を家族交流会時に報告しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が中心となり行っている。	運営推進会議への参加があり、役所の窓口に広報誌を置いてもらっています。また必要に応じて、管理者が直接役所に出向いたり電話で相談するなど協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スロープ出入口にチャイムを設置し日中は鍵をかけない取り組みをしている。また、身体拘束についての資料を職員間で回覧し、周知している。	身体拘束のマニュアルをいつでも見られる場所に置いたり、研修時の資料を回覧し職員の理解に繋がっています。気になる言動が見られた場合は管理者から注意を促しカンファレンスで話し合ったり特別養護老人ホームの身体拘束委員会よりアドバイスをもらうなど拘束のないケアに心掛け、外に出たい願望のある利用者には付き添って出かけ閉塞感がないように努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての資料を職員間で回覧し、周知している。		

グループホーム天橋の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての資料を職員間で回覧し、周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて説明して理解を得ている(特に利用料金、退居に関して)。また面会時や家族参加の行事の際に質問、疑問に答えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し意見を取り入れる体制や入居者の方には嗜好調査を行なっています。また家族の面会時にも積極的に声を掛け、希望等を聞けるようにしています。	家族交流の場として実施する食事会や面会時に意見や要望を聞いています。家族から入居者と同じ手作りのものを食べてみたいという要望があり利用者と一緒に食事をするなど得られた意見に対しては職員間で検討し意見が反映できるように取り組んでいます。また家族に満足度調査を行い結果を家族に報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時GH主任から職員の要望等を聞く姿勢を持ち、半年に一度、主任との面接から職員からの要望を聞き必要に応じて意見交換するように心掛けている。	主任は意見をたくさん出してほしいと日頃から職員に伝え、日常業務の中でも多くの意見や要望を聞いています。年2回の個別ヒアリングの中でも研修の希望や業務に関することなど活発に意見が出ています。出てきた意見は全職員に伝え話し合いながら一定期間実施し評価を行い業務改善やサービスの向上に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的な状況についてはGH主任に把握してもらい、半年に一度、主任と職員が個別に面接し、それぞれの思いの意見交換を実施している。その後主任と管理者が面接を行い、職員との面接について報告を受け、また、主任からの要望や管理者からのお願い等を話している。他の事業所とのバランスを考慮すると全ての職員が満足できる職場環境・条件とは言い難いが、常勤職員の雇用等については努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人別の研修希望を調査し、希望に合った研修は優先的に受講する。また併設施設の勉強会への参加や施設外研修については積極的に提供している。特に認知症介護実践者研修については全職員が受講するように順次計画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都府下のグループホームが任意で加盟する協会に参加し、研修会や他施設への派遣研修に行くなど様々な情報を交換するなかでサービスの質の向上に努めている。		

グループホーム天橋の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に話を聞くにとどまっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に話を聞くにとどまっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	馴染みの関係を大切にしながらの友人や併設している特養に入所している方、同一敷地内にあるデイサービスを利用しておられる方などに来て頂き、交流の機会を持っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限り入居者の方と共に行動し、良い関係を築いている。料理、園芸等入居者の方から職員が教えて頂く事もありその様な機会も大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には出来る限り面会に来て頂いたり電話で話をしたりしている。また、受診についても可能な限り家族に付き添いをお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買物、地元の行事へ行き、馴染みの方に会ったり、ドライブ、外出等で馴染みの場所へ行く機会を設けている。	買い物に出かけた際に以前住んでいた家を見に行き近隣の馴染みの方と会話を楽しんだり、生まれ育った所や懐かしい場所へドライブに出かける等馴染みの関係が途切れないよう努めています。墓参りや外出など日常会話の中で汲み取った利用者の思いを家族に伝え、家族と共に関係継続の支援に心がけています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホール(共有スペース)で過ごされる方が多く、「皆と一緒に嬉しい」という声が聞かれる。様子をみながら職員が間に入り、よい関係を築いていけるよう努めている。		

グループホーム天橋の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は行っていないが必要に応じて行っていこうように努める。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス、ミーティングで本人を中心に考え、希望、意向の把握に努めている。	家族や利用者、在宅ケアマネジャーから入居前の情報を得て思いや意向の把握に努めています。日々の暮らしの中で意向に繋がる会話や表情などもパソコン上で記録に残し利用者の思いをカンファレンスで検討し職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人はもちろん、家族、在宅ケアマネジャー、以前の利用施設等から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況については毎朝のバイタル測定で把握し1日の過ごし方等はケア記録、引継ぎで把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、ミーティングを中心に作成している。また、家族からは面会時に思い、希望を聞くように努めている。	初回のアセスメントや家族、利用者の意向を基に介護計画を作成しています。計画は3ヶ月毎にモニタリングを行い見直しの必要性がない場合は6ヶ月毎に見直しをしています。見直し前には職員参加のカンファレンスを行い、不参加の職員の意見や面会時に聞いた家族の意見、必要に応じて看護師等の意見も反映させています。	日々の記録はプランの内容と連動させ、定期的な見直し前には再アセスメントを行い職員間で共有し次の計画に反映させることが期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンに個別に記録して情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、職員間で相談し対応している。また、医療面に関しては併設施設の看護職員の協力やかかりつけ医に往診していただいている。		

グループホーム天橋の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受入を行い、歌、手作り雑巾の作製等、個々に合った支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居されてからも在宅時のかかりつけ医を継続していただいている。必要に応じて日頃の様子を伝える為、「通院時情報提供シート」を利用しかかりつけ医と連携を取っている。また毎月定期的に往診に来ていただいている入居者の方もいる。	利用者は入居前のかかりつけ医を継続しています。往診可能なかかりつけ医もありますが殆どの利用者が家族同行で定期受診をしており、家族が行けない場合など必要に応じて職員が同行しています。通院時は必要な事柄を記入した通院時情報提供シートを利用し、かかりつけ医との連携を図っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護職員と連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会に行き様子を把握している。また退院に向けてはできる限りカンファレンスを行い、行えない場合には情報提供をお願いし状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所内で退居や事業所でできる範囲について話し合い、その基準を基に取り組んでいる。	契約時に看取り支援はできないことを説明しています。事業所で出来る事については家族と相談しながら支援し、日常的な生活が困難となり医療行為が必要となった場合は検討会議を持ち、状況を確認した上で、家族と相談しながら他施設への転居に向けての話を進めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等にはマニュアルに従い対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼、夜間想定避難訓練を併設施設と合同で行っている。	年2回法人内の施設と共に昼夜を想定して、通報、初期消火、避難誘導の訓練を行っています。毎回消防署の立ち合いを依頼していますが消防署の都合で参加してもらえないこともあります。運営推進会議では訓練の報告を行い地域の方にも声かけをしています。地域の防災訓練もあれば参加する意向です。	

グループホーム天橋の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	希望者には自室の鍵を携帯してもらっている。また希望者には居室出入口のガラスにカーテンをして中の様子が見えないようにしている。その他、声掛けもプライバシーを損ねないような声掛けをしている。	外部研修に参加し会議の中で発表を兼ねて職員に伝達をしています。利用者が不快な思いをされないよう日頃から声掛けのトーンや言葉遣いに留意し、不適切な言動が見られた場合は管理者や主任が注意し、必要に応じて会議やミーティングで話し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から外出の希望などを聞いている。また、日々の生活の中で可能な限り自己決定して頂く場面を作り支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況で出来る限り入居者の方との会話を中心に希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔からの行きつけの美容院でのカットや訪問理美容でのカットしている。また、個人で化粧水、クリーム、自分好みのシャンプー等を持ち、各々身だしなみができる様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には誕生者の希望を聞き、好物を昼食のメニューにしている。また、嗜好調査を行い把握に努めている。食事準備、片付けは入居者の方と共に行っている。	献立は在庫の食品や広告を見ながら利用者の希望を聞きながら立てています。利用者と一緒に食材の買い物に出かけ、野菜切りや味付け等できることに携わってもらっています。苦手なものは代替え食を提供し、畑で収穫した野菜が食卓に上ることもあり、家庭的な雰囲気の中で職員と共に食卓を囲み楽しんでます。時には外食に出かけることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	以前、栄養士の資格を持った職員がおり、その職員を中心に栄養バランス、味付け等を行っていた。その他、入居者の方の体調に合わせて代替食にて対応したり、水分補給については声掛けを行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きと番茶でうがいをしている。また必要に応じて就寝時には義歯洗浄を行っている。		

グループホーム天橋の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンやサインを見逃さないようにし引き継ぎ等で情報を共有している。また必要に応じて、かかりつけ医にも状況を報告している。	個々の排泄パターンを把握し、その時々の様子を見逃さず定期、随時の声かけや誘導を行いトイレで排泄できるよう支援しています。適切な声かけや誘導により失禁が減少し改善に繋がった事例もあります。カンファレンスやミーティング等で話し合い、パットの種類や紙パンツなど個々に応じたものを使用するようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	御飯に寒天を入れたり、毎日ヤクルトを摂取したり朝にはバナナ、ヨーグルトを摂取している。また食物繊維の多いものの摂取を心がけている。その他、体操や室内ウォーキングを行い、適度に体を動かす機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回のペースで入浴していただいている。順番は出来る限り希望を聞き、拒否のある方へは様子を見ながら声掛けする。	週2回を目途に午後4時から6時の間に入浴してもらっていますが、希望があれば毎日の入浴も可能で、同性介助や湯温等も希望に応じています。好みのシャンプーやリンスなど持ち込まれている方もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は本人の希望で自室、ホールの畳の間で行っている。入居者の方からは「ちょっと横になってくるわ」と言う言葉も聞かれその時の状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬資料は個別にファイルに綴じて保管し必要に応じて確認している。また服薬の準備については職員2名で準備しその他の職員1名が確認を行う3名体制で行っている。下剤についてはかかりつけ医了解の元、様子をみながら調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日、クリスマス会 & 忘年会や季節に合った行事、活動を行い支援している。最近では般若心経を良く知っている入居者を中心に皆で唱えることがある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物、散歩、ドライブ等職員と一緒に出かけている。また、春、秋には遠足に行き四季を楽しむ機会を設けている。	散歩や買い物、ドライブ等天気の良い日は少しでも機会を作り出かけるようにしています。ホテルでの食事会や花見等季節に応じた外出もあり家族に参加してもらうこともあります。外出は偏らないよう一人ひとりの希望や状況に合わせた支援に心がけています。	



グループホーム天橋の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し本人の希望に合わせて金額は少ないが自分で管理していただいている入居者の方がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族に電話していただいたり家族から掛けていただいている。また、家族や馴染みの方から年賀状が届く入居者の方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは大きな窓があり明るくゆったりと過ごせるスペースとなっている。所々にソファがありゆっくり座ったり畳の間で横になったりするスペースがある。また、季節を感じれるように花や季節の物(雛人形・クリスマスツリーなど)を飾っている。	広々としたリビングは開放感があり大きな窓からの採光で明るく、毎日の掃除で清潔さを保っています。利用者手作りの作品や季節の花を随所に飾り、暖かい雰囲気作りがなされています。ソファや畳コーナーを設け換気や温湿度にも気を配りゆっくりと寛ぎながら過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前や廊下にソファ、こたつ、食事用の椅子があり個々に好きなところに座りゆくり過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し以前、自宅で使用していたものを持って来て頂く様に工夫している。家族の写真やダンス、テレビ等各々思い思いの品を持って来ていただいている。居室の出入口にはネームプレートを設置し飾り等も工夫している。	入居時にはダンス、ソファなど馴染の物を持ち込まれ家族と相談しながら設えています。部屋の床はフローリングになっていますが希望により畳を敷いて布団で休むことも可能で好みや習慣に合わせて居心地良く過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は広く、段差もほとんどない為、老人車の方、車椅子の方も安心して生活していただける。またコールや手すり等も設置して安全面も配慮している。トイレには案内板を設置し入居者の方に分かるようにしている。		